

## 「走りの学校」

「足の速さは才能じゃ無い、走りの学校、和田賢一です」、毎回このフレーズで始まるユーチューブにハマっている高野です。

この動画、ホント良く出来てるんです。冒頭のキャッチコピーもそうですが、良く計算されています。「走り」というものを通じて、よく人の感情に入ってくるというか。

出し惜しみの無い内容は勿論、「走りの学校は今まで才能だと諦められていた足の速さを解説することで、成功体験をお届けするチャンネルです」というミッションも素晴らしい！理念経営の実践者という視点から見てもタメになります。

当初、サッカーをやってる息子の足を速くしたくて見始めたのですが、確かにやるとスピードが上がります。面白いのはそれを傍で見ていた娘が「私もやる！」って、朝のトレーニングに交じってきたことです。

娘は中学でバレーをやっているのですが、「りゅうま伝 30 号」で紹介したとおり、なんでお前がバレー？って思うくらい、運動と無縁で暮らしてきた子。バレー部でもレギュラーとは無縁なこの子が大化けしたんです。

なんと 1 か月で 50 メートル走が 1 秒以上速くなり、運動会のブロック対抗リレーに選ばれるまでになったのです。ま〜びっくり。

リレーは陸上部やバスケット部の女子を相手に完敗でしたけれど、そういう子たちと同じ舞台上に立てたことが親として嬉しくて嬉しくて(涙)。

ただアノ不格好なフォームで、あそこまで戦えたのですから、「伸びしろ」だらけです。

娘は運動会後の今もトレーニングしています(笑)。

そうやって毎朝、子ども達と短距離を練習していると、ふと思い出したんです。自分のコンプレックス(劣等感)を。「俺は足が遅いことを理由に色んなことを諦めてきたな」って。

小学生の頃は、野球がソコソコ上手くて地域の選抜にも選ばれたりしてたのですが、足が遅いこと、非力なことが私のコンプレックスでした。そういうのもあって、中学校に入った時、野球を諦めたのです。

ところが、私の足は年を重ねるにつれ速くなり、高 3 の時は、帰宅部にもかかわらずクラスでも速い方になっていたのです。タイムは忘れましたが、記録を見た時、妙にポカーンとしたのを覚えています。

「俺の足は成長スピードの問題だったのか・・・」。

そして今、人生を振り返ると、「才能」という言葉を持ち出して諦めてたこと多いよなって、気づいたのです。「今からやろうよ」って、子ども達に教えられている気がするのです。

という訳で毎朝、子ども達と一緒に汗を流す今日この頃です。